

総合的な学習の時間（中学校）

1 改訂の基本的な考え方

○前回の改訂

- ・地域や学校、児童生徒の実態に応じて教科等の枠を超えた横断的・発展的な学習として探究的な学習や協働的な学習を目指す。
- ・探究のプロセス（①課題の設定→②情報の収集→③整理・分析→④まとめ・表現）を明示し、学習活動を発展的に繰り返していくことを重視。

（1）成果

- ・全国学力・学習状況調査や学習到達度調査（PISA）との相関（→探究的なプロセスを意識した学習活動に取り組んでいる児童生徒ほど各教科の正答率が高い傾向）。
- ・探究的な学習活動に取り組んでいる児童生徒の割合が増加。
- ・探究的な学習活動が学習の姿勢改善に大きく貢献。

（2）課題

- ・資質・能力の育成、各教科との関連付け等での学校間の差。
- ・探究のプロセスにおける「整理・分析」、「まとめ・表現」の取組が不十分。

○今回の改訂

探究的な学習の過程を一層重視 + 各教科等で育成する資質・能力を相互に関連付け



実社会・実生活において活用できる各教科等を越えた学習の基盤となる資質・能力を育成

2 改善・充実の具体的事項

○目標の改善

- ・総合的な学習の時間の目標は、「探究的な見方・考え方」を働かせ、総合的・横断的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成するものであることを明確化。
- ・総合的な学習の時間の目標設定に当たっては、教科等横断的なカリキュラム・マネジメントの軸となるよう、各学校の教育目標を踏まえて設定するよう明記。

○学習内容、学習指導の改善・充実

- ・総合的な学習の時間の目標を実現するにふさわしい探究課題を設定するよう改善。
- ・探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力を設定するよう改善。
- ・探究的な学習の中で各教科で育成する資質・能力を相互に関連付け、実社会・実生活の中で総合的に活用できるものとなるよう改善。
- ・教科等を越えた全ての学習の基盤となる資質・能力を育成するため以下の活動を明記。
 - 課題を探究する中で、協働して課題を解決しようとする学習活動。
 - 言語により分析し、まとめたり表現したりする学習活動。
(比較する、分類する、関連付けるなどの「考えるための技法」を活用)
 - コンピューター等を活用して、情報を収集・整理・発信する学習活動。
- ・自然体験やボランティア活動などの体験活動、地域の教材や学習環境を積極的に取り入れること等は引き続き重視。

3 移行措置について

- ・平成30年度から新学習指導要領による。